

飼育下自然繁殖におけるコツメカワウソの日間成長率について

○落合晋作, 寺原三千男
(鹿児島市平川動物公園)

平川動物公園では、老齢個体の死亡に伴い2011年に新たに1ペアを導入した。平成25年12月5日に導入後3度目の繁殖を確認し、出生2日目以降ほぼ毎日体重を計測している。今回は飼育下自然繁殖における仔の形態及び行動の変化、日間成長について概要を報告する。

雄親のヤマト(3歳, 国内血統登録番号:492)と雌親のチェリー(4歳, 同:545)は2013年1月に2度目の繁殖を経験し、2頭のメスを生育させ、現在も同居展示を行っている。飼育施設は屋外展示場(W8.0×D5.5m, 水量20 m³プール付属)と屋内寝室(W3×D2.8m, 水量5 m³プール付属)がシャット扉で連結しており、プールは密閉式濾過槽(0.5ターン/h)で、温度管理装置は付随していない。また寝室内には木製寝箱(W60×D50×H30 cm)を設置し、出産や授乳はこの中で行われた。

1度目が死産ということもあり、2度目の繁殖についてはストレスを与えないよう、接触を必要最小限としたため、体重変化などを把握することはできなかった。また、親も出産後は神経質になり、攻撃的な姿勢をとることから仔の生存確認のみを行うに留めた。3度目の出産時には、仔に対しての執着が薄く、仔を隔離することが可能であったため、状態確認及び体重測定を実施した。出産個体数は3頭(オス1, メス2)で、生後2日の平均体重は83.6gであった。順調に生育していると思っていたが、2014年1月7日にメス1頭が死亡(低体温症と推測)、同2月8日にオス1頭が死亡(低体温症、低血糖症と推測)し、2月21日現在ではメス1頭のみが生育中である。測定した体重より体重増加率(前日体重-当日体重/前日体重)をグラフ化し、傾向を読み取ると以下の3期に分けることができた。1期(生後~30日):体重増加率に幅があり、前日より体重が減少する日も認められる(最大14.1%, 最小-11.8%, 平均±標準偏差2.2%±5.9)。2期(生後31~60日):体重増加率が1期より安定している(最大12.2%, 最小-2.9%, 平均±標準偏差4.0%±2.8)。3期(生後61~78日):1期ほどではないが体重増加率に幅がある(最大6.3%, 最小-11.8%, 平均±標準偏差1.6%±3.6)。また、体重増加率の変換期には仔の形態や行動の変化と概ね連動しており、2期への移行期には、開眼し1個体が死亡した時期と重なる。3期への移行期には、母乳以外にも魚や鶏肉を摂餌した時期と重なる。以上のことから、仔の成長には外的要因(授乳個体数の変化など)と内的要因(開眼や歯の形成による餌料の変化など)が影響していることが推測できた。今後は継続して成長を記録し、人工保育や他のイタチ科動物等と比較し成長の傾向を検討していく必要がある。